

一営巣誘引地にコアシサシ飛来一

***5月5日 9時**

NPO法人B&G大崎わんぱーく海洋クラブのプログラムとして、デコイや音源スピーカーを設置した営巣誘引地にコアシサシ10羽が飛来しました。

うち7羽が着地、餌をプレゼントする求愛行動も確認しました。鳴き声の拡声器放送と50羽のデコイ仲間に引き寄せられたものと思われます。

***5月29日 10時**

コアシサシ16羽、座って抱卵している個体も4羽ほど見られます。(卵は未確認)

この時、誘引地より南側の海上上空を旋回飛行する、アジサシ、ベニアジサシ、クロハラアジサシ、コアシサシなど250~300羽の群れを観察、思わずワクワクしました。

一代替営巣地の準備一

この海岸では、コアシサシの営巣数もしだいに増えてきました。一方、昨年、一昨年の主な営巣地であった菱田川河口ではアジサシ類は全く観察されません。やはり、誘引設備の効果の大きさを実感しました。

しかしながら、大雨などの災害や、獣、猛禽類などの天敵に襲われて営巣地を捨て、別の場所に移動することは今まで幾度も経験していたので、代替営巣地の準備もしておくことにしました。

場所は、当たるも八卦当たらぬも八卦。前年実績のある菱田川河口左岸(押切海岸)。

5月9日(日)9時から約2時間。志布志湾岸野鳥ネットワークの林悦子さんを含め7名で海端の軽石を集めてきては砂地に撒く作業を行いました。



一誘引営巣地からの逃散・移動一

6月8日8時30分 昨日まで観察していた場所からコアシサシの姿が数羽しか見えません。吉田新一さんと二人で誘引営巣地の中に入り確認したところ、砂地には数多くの営巣跡と割れた卵の殻と獣の足跡だけが残っていたのです。

コアシサシたちは、松林に潜んでいた天敵に襲われ、卵を捨てて、逃げてしまったようです。この光景はこれまでに何度か目にしましたが、自然の摂理とはいえ、やはりつらいものがありました。



ところが、今回はすぐ近くに移動していました。

同じ横瀬海岸を400mほど北東に飛んだ田原川河口右岸の砂地に抱卵しているコアシサシの群れと渚上空を飛翔するアジサシ類を見つけることができたのです。



—保護ロープと獣除け網、雛保護シェルターの設置—

抱卵の定着確認の期間において、6月14日 大崎町企画調整課に新営巣地への車両や人の迂回を促すための仮設ロープと、獣の侵入防止のための網を設置する申請を行いました。（※シェルターは誘引営巣地から流用）

担当の方がとてもスピーディに、地主さんの承諾と鹿児島県の設置許可を取っていただき、19日には設置を終了、一安心することができました。

また、設置作業は、暑い中、本会会員のほか地元に関心を持ってくださる方々の参加をいただいてスムーズに進捗しました。申請から設置までかかわっていただいた皆様に、心から感謝申し上げます。



※6月20日9時時点、
 コアジサシ営巣群約200羽（抱卵個体数100+）
 海岸付近飛翔のアジサシ類約200羽
 （アジサシ50+、ベニアジサシ50+、コアジサシ100+、クロハラアジサシ2）

—孵化の始まり—

6月24日11時37分 吉田さんより「コアジサシの雛1羽かえる。」うれしいショートメールを着信しました。孵化第1号です。4WDの轆ギリギリに営巣した卵3個のうちの1個。保護ロープがなんとか間に合ったようです。

6月26日11時 6羽の雛を確認。シェルターに身を隠す個体も観察されました。

この浜で、これから次々と孵化することでしょう。

雨量が激しい時季を乗り越え、この子たちが無事に巣立ちすることを祈るばかりです。

（報告：副支部長 前田和浩）

お詫びと訂正

「日本野鳥の会かごしま県支部」支部報「るりかけす」170号6ページ『2021 コアジサシ保護活動レポート』中、音源を提供いただいた本部 松田道生様への敬称が欠落していました。

正しくは『本部の松田道生さんからです。』です。大変失礼な表現になりましたことをお詫びして訂正いたします。

文責者 前田和浩